

表1 原文と英文翻訳後のセンテンス数の比較

	原文	翻訳英文(A)	翻訳英文(B)	表
イミフィンジ	68	72	69	1
スキリージ	29	35	31	0
ヘムライブラ	68	78	75	5
レルミナ	42	49	52	3

表2 翻訳結果評価における不備事項の数

翻訳不備の種類	イミフィンジ		スキリージ		ヘムライブラ		レルミナ	
	A	B	A	B	A	B	A	B
訳漏れ	4	30	2	17	9	47	10	25
原文の誤解釈	6	4	1	4	7	14	9	6
訳文の文法／構文	3	3	4	1	11	12	10	5
不適切用語	5	13	5	3	2	10	5	5
記号・数字	4	0	0	1	5	1	8	2
その他	12	2	6	1	26	6	15	2

表3 スコア2 の主な不備事項の内容

スコア2
原文の太文字が反映されていない。
意味は通じるが、科学論文では一般的ではない用語が使われている。
句読点が乱れている。
文章の意味は通じるが、訳されていない部分がある。
注釈番号が認識できない。
上付き、下付きが反映されていない。
単数形と複数形の乱れがある。

表4 スコア1 の主な不備事項の内容

スコア1
単語と単語の相互の関係性が間違っている(省略された日本語によるものもある)
原文には存在しない数値や単語が挿入されている。
重要な語句の訳漏れがある。
タイトル行の意味が異なる(省略された日本語によるもの)
訳文の主語が間違っている(省略された日本語によるもの)
英語としても一般的ではない意味不明な造語がある。
修飾句が修飾する先が間違っている。
日本にしかない固有名詞のため、英語に直訳すると異なる意味になる。
原文のアルファベット略名や単位記載を更に変換し、意味不明になる。

表5 スコア0 の主な不備事項の内容

スコア0
文章の意味が異なるため、大幅に修正が必要
二重否定が訳されていないため、逆の意味になっている。
原文のどこにも登場しない有効成分名に置換されている。
原文のかなりの部分が訳されていない。
原文の中にアルファベットの略名や単位記載があると、誤作動を誘発し英訳できなくなる。
長い原文を分割して英訳する際に、文章間のつながりに齟齬を生じる。
長い原文を分割して英訳する過程で誤作動を誘発し、意味不明な訳文となっている。
数値の挿入箇所が間違っているため、原文と英訳文で試験結果が異なる。
原文の文章途中に()で引用文献が挿入されていると、誤作動を誘発し、英訳できなくなる。
原文とは全く無関係の文章が挿入されている。

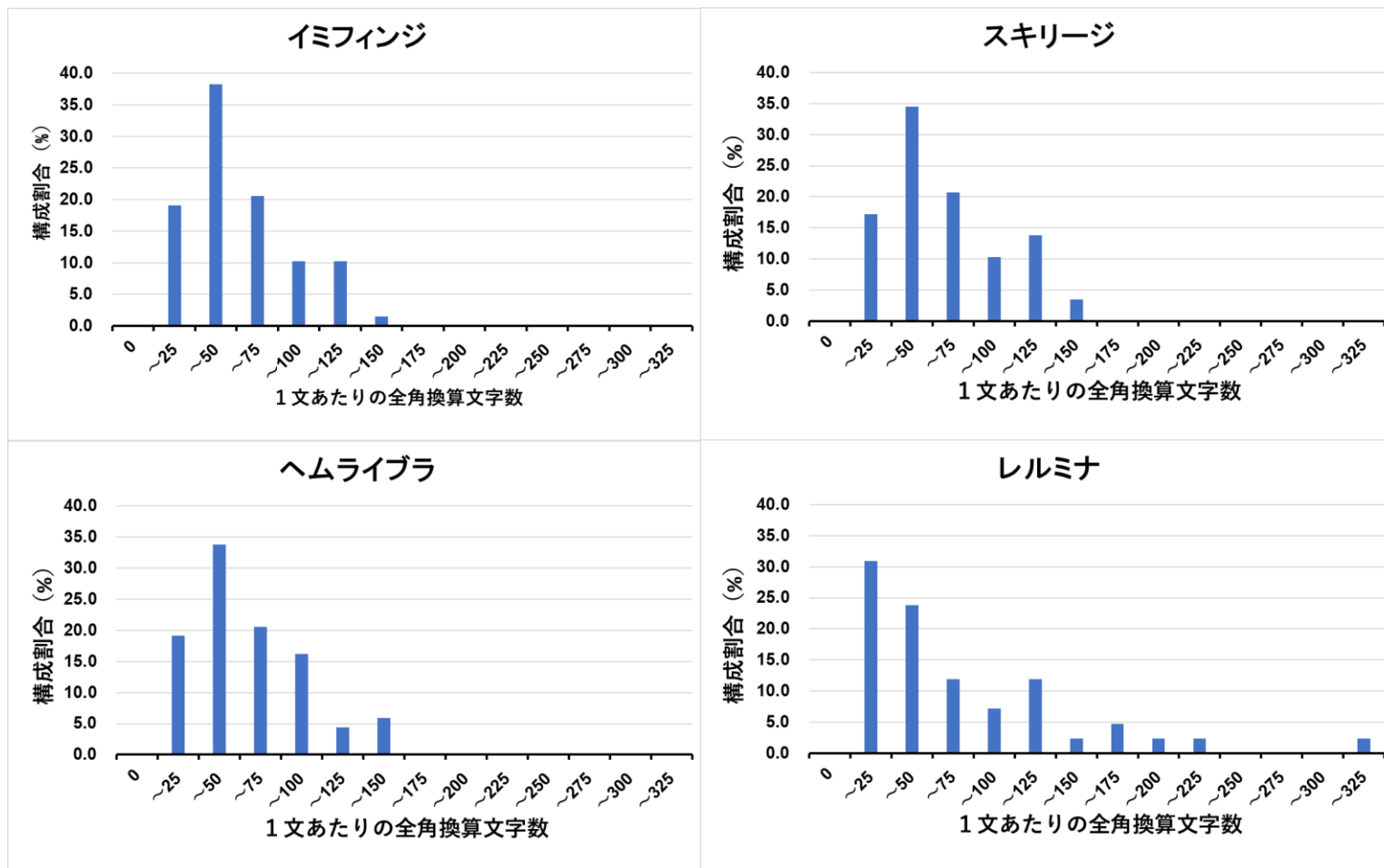


図1 原文の1文あたりの全角換算文字数の分布

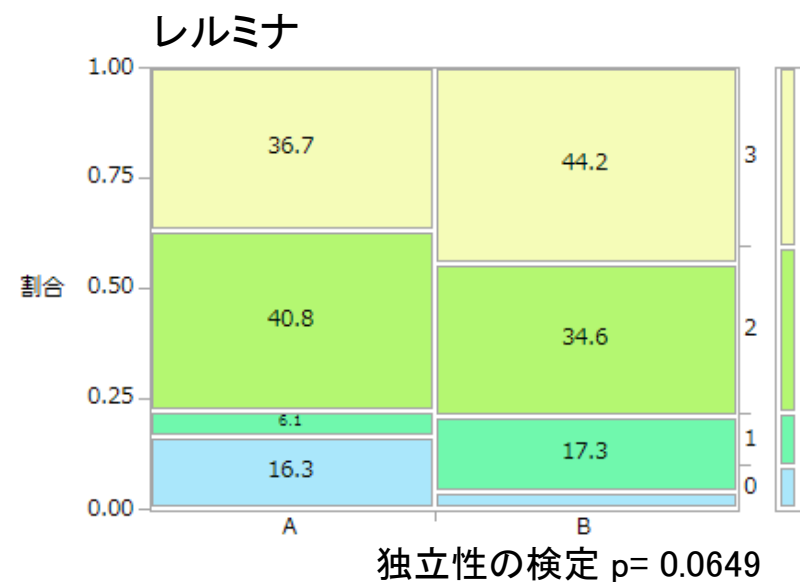
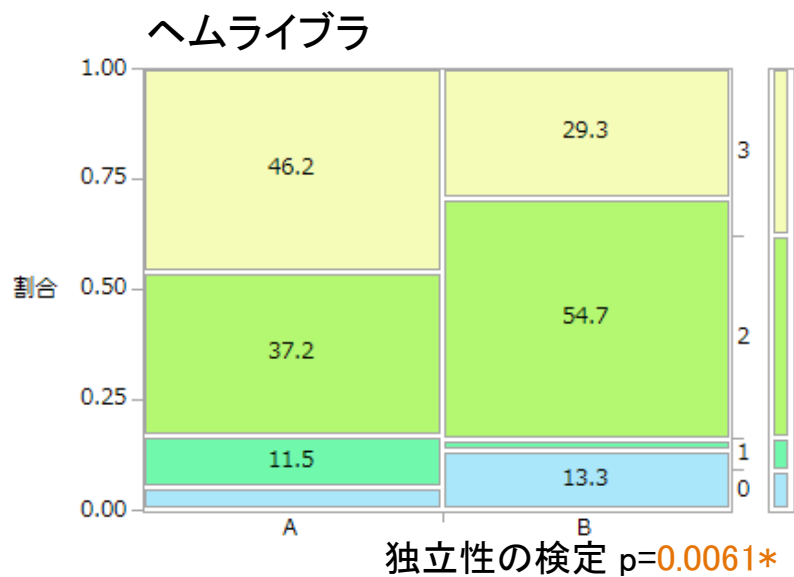
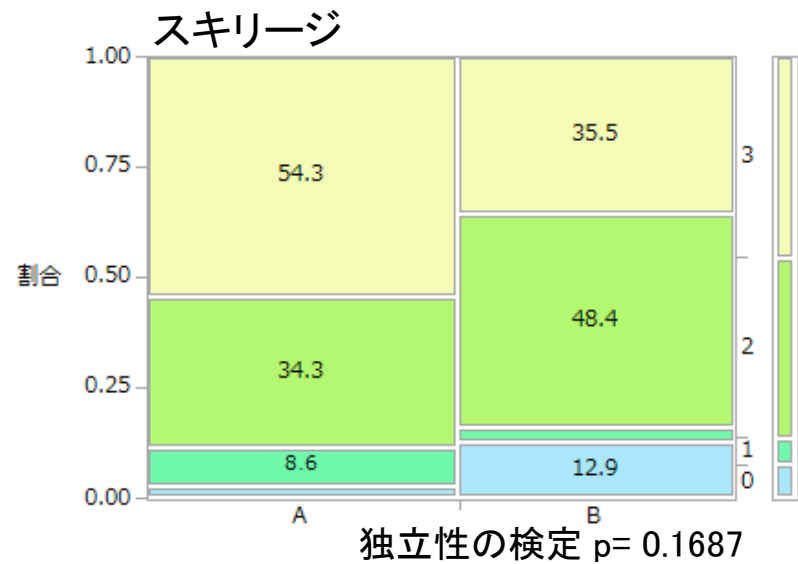
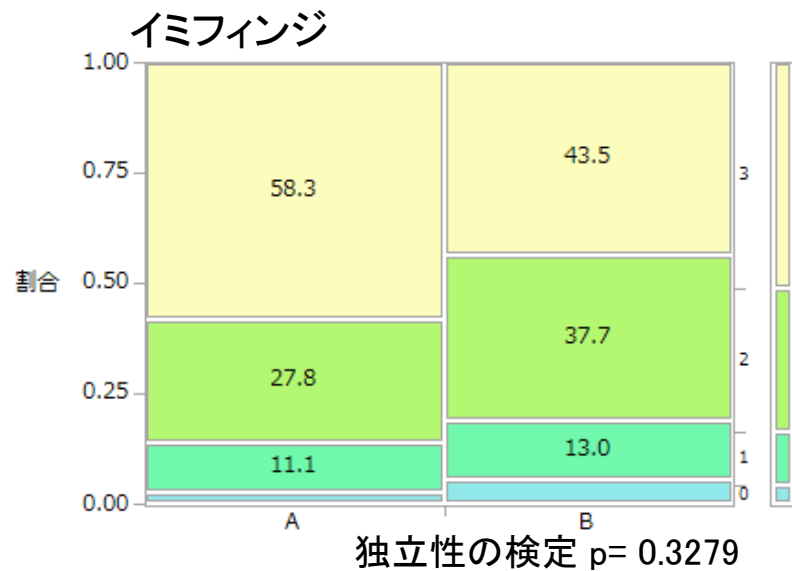


図2 翻訳ソフトAとBによる翻訳結果スコア分布の比較

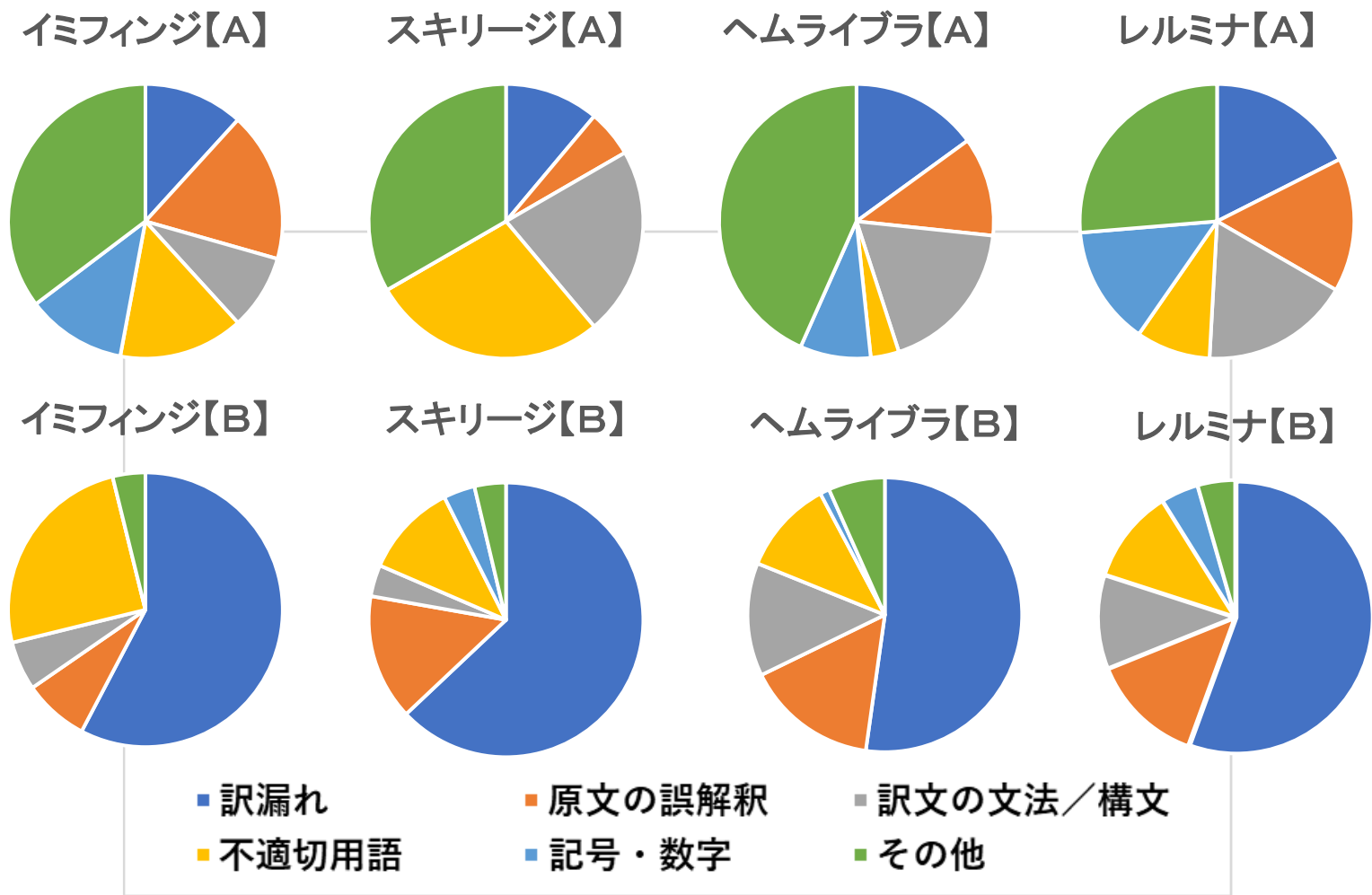


図3 翻訳結果評価における不備事項分類の割合比較